

やすらぎ通信

平成 29 年 秋彼岸

発刊不定期 横浜やすらぎの郷霊園管理事務所 〒241-0802 神奈川県横浜市旭区上川井町 1749-1
☎045-924-0210 FAX:045-924-0239 URL: y-yasuraginosato.jp Eメール: info@y-yasuraginosato.jp

□蓮の華が咲きました

お盆の頃、きれいな薄ピンク色をした蓮の華が順々に開きました。つぼみが日に日に大きくなり、華が開く時は早朝に咲き、昼頃には閉じてしまいます。透明感があり気品のある華でした。



□やすらぎ寺子屋のご案内

毎月第1日曜日の午後2時から、椅子坐禅と法話会・茶話会を行っています。仏教に親しみ、坐禅に触れてみませんか？お気軽にご参加下さい！！

【10月1日（日） 11月5日（日） 12月3日（日）】

午後2時～ 1時間

場所：やすらぎの郷霊園礼拝堂 参加費：無料

■御詠歌教室

仏さまを讃え、ご先祖さまを敬うところを唱えます。やさしく穏やかな曲をお唱えしているうちにやすらかなころとなります。

講師は曹洞宗梅花流特派師範 渡邊清徳師です。

【10月5日（木） 11月9日（木） 12月7日（木）】

午後2時～ 2時間

場所：善光寺 参加費：無料



■善光寺講座 ～『論語』からのおはなし～

軽快なユーモアを交え日常の生活に活用できる生き生きとした『論語』の世界へと誘います。老若男女問いません。是非ご参加下さい。

講師は東郷敏先生です。

【10月9日（月） 11月12日（日） 12月16日（日）】

午後2時半～ 1時間

場所：善光寺 参加費：無料

□ハチにご注意下さい

今年はハチが多く、巣も幾つか見つかりました。右の写真は管理棟裏の軒下にできたスズメバチの巣（6月下旬）です。お墓の香炉に巣をつくる場合もあります。見かけた場合は霊園スタッフまでお声かけ下さい。



◆秋の夜長に脳トレはどうでしょう？

昨今の健康ブームの一環でしょうか。認知症予防には「脳のトレーニングが大事」とばかり、テレビでは毎日のようにクイズ番組が放映されています。先日見ていた番組に「判じ絵」という問題が出ていました。「判じ絵」とは、絵を判読(推理)して言葉を当てるなぞなぞ遊び。江戸時代に浮世絵師が趣向を凝らしてさまざまな問題を作って流行した遊びだそうです。

下の絵は何を表しているか、わかりますか？(答えは編集後記にあります)【出典 江戸の判じ絵問題より】

①



②



③



④



⑤



⑥



⑦



⑧



◇続いての脳トレは数独(ナンプレ)

数独とは 3×3 のブロックに区切られた 9×9 の正方形の枠内に 1~9 までの数字を入れるパズルです。3 つの黄色いマス(マス)の数字を合計すると幾つになるでしょうか

①

				5	2	7		
	4	7		6		5		8
	6	3				1		
	9		7				6	5
				9				
3	5				4		7	
		2				8	9	
9		5		7		4	1	
		8	1	2				

□ + □ + □ = ?

②

	8		2		6		9	
	6	1		7		4		
7		5	8			2	6	
	4	6						
3	7			8			5	2
						3	7	
	3	7			1	9		6
		4		6		1	2	
	1		4		7		3	

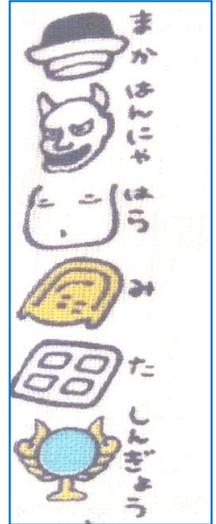
□ + □ + □ = ?

■絵般若心経

「判じ絵」を見ながら思いたったのが、以前読んだ『般若心経入門』（松原泰道著）という本の載っていた絵心経です。文字の読めない人たちにも般若心経の教えを伝えるために江戸時代につくられたものだそうです。

幾つかの絵を判じてみると、摩訶は「釜」の絵をさかさまにしてマカ。般若は「般若のお面」でハンニヤ。波羅は「お腹」でハラ。蜜は「蓑のみ」でミツ。多は「田んぼ」のタ。心経は「神棚に祀る鏡」でしんぎょう。

絵の意味よりも音で聞いて、皆で一緒にお唱えできるようにとの思いから出来たものでしょう。【絵心経の写真は「株式会社くろちくの絵心経手拭いたおる」より】



絵心経は江戸時代に般若心経の深淵な内容を文字の読めない一般の民衆や子どもたちに、まず、「目で見て絵を読む」という方式で親しみをもってもらい、そして「空の世界」への理解を深めて仏法の真髄にまで導くことを意図して作られたものです。

絵心経は 18 世紀初め、中尊寺のある平泉で寺社取締の補佐役をしていた善八さん（源右衛門という説もある）の創作によるものだとわれています。そして 120 年余りの後の天保年間、摺物師の舞田屋理作という人が、やはり同様な情熱をもって「絵心経」を作り文字が読めない人々や子どもたちにこの経典を届けたといえます。

今日、私たちにとって微笑ましく思われるのは、方言といわれる地域語がそのままの形で表されていることです。たとえば東北地方の方言では、「し」を「す」と発音するため、「色（しき）」や「識（しき）」が「鋤（すき）」の絵で表されているといったところです。これを見ただけでも楽しくなり感動いたします。

ありがたいお経を何とかして文字が読めない人々にも伝えたい、分からせたいという昔の人の熱意と愛情が感じられます。（松原泰道監修「大人のためのぬり絵般若心経」四季社より）



般若心経 ～心無罣礙～

善光寺で毎月一回開催している写経教室。平成 19 年の 6 月から始まり 10 年が経ちました。継続は力なり。永島先生をはじめ、続けてご参加いただいている方も多く、頭が下がります。276 文字のお経を気持ちを入れ込み写す。字の上手下手は関係なく一心にお経に向かう時間です。ご自宅でお写経されたものを納経される方もいらっしゃいます。最近流行りの御朱印帳も元々は、納経帳といわれお写経を納めたその印として頂いていたもののようなのです。皆さまも是非一度、お写経の体験をされてみては如何ですか？

般若心経の中に心無罣礙(しんむけいげ)と言う文字があります。心に罣礙(けいげ: ひっかかり、さまたげ)が無い状態です。般若心経で説かれる空の智慧で、自らを省みると何も心にさまたげとなる束縛が無い状態になるとのお示し。すると、恐れや不安が無くなり、「顛倒夢想(てんどうむそう)」と表現される、ひっくり返ったような空想・妄想の世界を遠く離れ、「涅槃(ねはん)」と呼ばれる静かなお悟りの世界・彼岸の世界に渡ると般若心経は説きます。常日頃、心の中に色々と引っかかるものを多く抱えている私たち。この静かなお悟りの世界にあこがれませんか？『私には無理!!関係ないわ』と諦めないで、まずはお彼岸の間、空の智慧に目覚めるための修行をして参りましょう。



善光寺客殿にある繪皿
「遠離一切顛倒夢想」と
描いてあります

○布施(ふせ) ～あたえよう、物でも心でも～

もらって喜ぶだけでなく、与える喜びのある生活をしましょう。
何もなくても笑顔でいるだけで立派な布施、和顔施です。

○持戒(じかい) ～生きよう、人間らしく～

戒とは戒め、心の躰です。正しい生活を続けていくことで習慣化していくものです。

○忍辱(にんにく) ～耐えよう、どんなことにも～

忍の字はわがままで自己チューな心の上に刃を置いて自分を律すること。

○精進(しょうじん) ～努めよう、自分の仕事に～

僅かな水でも常に流れれば石に穴をあける事ができます。諦めないで励みましょう。

○禪定(ぜんじょう) ～落ちつこう、息をととのえて～

心を静めましょう。あれこれ気が散って落ち着かない日々の中でも、ひととき息を調える時間をつくりましょう。

○智慧(ちえ) ～目ざめよう、仏の道に～

かたよらない心・こだわらない心・とらわれない心

続けていくことで、いつの間にか心のわだかまりが減り、自然と他人に優しく出来る自分に気がつくことでしょう。共に精進していきましょう。

合掌

編集後記 ◆キレイな蓮の華。お釈迦さまの座られる場所を蓮華座と言います。蓮の華と仏教の結びつきは強く、「泥中の蓮華」という言葉もあります。泥の中から咲く蓮の華。迷いの多いこの世の中でこそ、仏の教えは華を開かせます。■判じ絵の答え ①ほうちょう(頬に蝶) ②かまきり(釜を切る) ③ひじき(肘に木) ④あじ(足に濁点) ⑤すすむし(鈴を蒸す) ⑥ちやがま(ガマが茶をたてる) ⑦すすめ(鈴に目) ⑧きつね(杵の間につ) ■数独の答え ①13 ②22

